

学校給食と献立の目標について

1. 学校給食の概要

大きく変化していく社会環境のもとにあって、これからの教育の大きな柱の1つとして「生きる力を育む」ことが求められています。学校給食にとって「生きる力」とは、食べる力(自分の健康を考え、食事を選ぶ能力)のことで、たくましく生きていくための心身の健康の基本です。学校給食法第2条でも学校給食の目標として掲げられています。

学校給食の目標(学校給食法-第2条)

- (1)適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- (2)日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- (3)学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- (4)食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- (5)食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- (6)我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- (7)食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。



- 給食だより（月1回） 特別号として夏休み・冬休み・給食週間
- 今週の献立（毎週1回） 各学校園・クラス
- 献立を生きた教材とし、給食指導の実施や、食に関する指導の充実を図ります。

2. 献立の目標

四季折々の献立の中で、三田米や地場野菜を使用して、新鮮な食べ物を供給し、食べ物への関心を高め、楽しく豊かな食生活に導く。さらに、学校給食をとおして園児・児童・生徒と保護者のふるさと意識づくりに寄与する。

給食献立の3本柱



健康と安全

- ・不足しがちな食品・栄養素の補給
- ・新鮮で安全な食品の購入
- ・衛生面を考慮した献立の工夫



食文化の伝承

- ふるさとづくり
- ・地場野菜の活用
- ・郷土食や伝承食の導入
- ・日本の郷土食
- ・世界の料理



献立を教材に

- ・食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解
- ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し自ら管理していく能力